



FinOpsとは、運用フレームワークおよび組織文化的なプラクティスであり、エンジニアリング、財務、ビジネスチーム間のコラボレーションを通じて、**テクノロジーのビジネス価値の最大化**、データに基づいたタイムリーな意思決定、財務上の説明責任を生み出すためのものである。

原則

- チームはお互いに協力する必要がある
- ビジネス価値に基づいて、テクノロジーに関する意思決定を行う
- すべての人が自分のテクノロジー利用に当事者意識を持つ
- FinOpsデータはアクセスしやすくタイムリーで正確であるべき
- 組織横断の専門チームが中心となりFinOpsを推進するべき
- クラウドの変動費モデルを活用する



FinOpsスコープ は、**テクノロジーカテゴリ** 全体にわたる支出を、プロダクト、コストセンター、環境といったビジネス構造に紐付けて定義したセグメントであり、テクノロジーの価値を最大化するためにFinOpsの適用をガイドするものである。

- カスタムスコープ プロダクト コストセンター + AI パブリッククラウド SaaS データプラットフォーム プライベートクラウド ライセンス データセンター +

コアペルソナは、FinOpsの実践に常に関与する。 **関連ペルソナ**は、FinOpsの実践をサポートする。

FinOps実践者	エンジニアリング	財務	ITAM	ITFM	ITSM
リーダーシップ	調達	プロダクト	セキュリティ	サステナビリティ	

ドメイン はFinOpsの実践で得られる成果をあらわしたものであり、**ケイパビリティ** はその成果を達成する方法を示したものである。

使用量とコストの理解	ビジネス価値の定量化	使用量とコストの最適化
データ取り込み	計画と見積もり	アーキテクチャ設計とワークロード配置
配賦	予測	使用量の最適化
レポートと分析	予算編成	料金の最適化
異常管理	KPIとベンチマーキング	ライセンスとSaaS
	ユニットエコノミクス	サステナビリティ

FinOpsプラクティスの管理

経営戦略との整合	FinOpsプラクティスの運用	ガバナンス、ポリシー、リスク	FinOpsの教育と普及促進
請求とチャージバック	FinOpsアセスメント	自動化、ツール、サービス	専門分野間の連携